

実践活動『挨拶・清掃・ゴミ拾い』について

平成25年度『耕人塾』研修の目玉として、8月17日(土)、18日(日)の両日、石巻西高校を会場に宿泊研修を行うことにしました。その中で中心的な活動が「挨拶・清掃・ゴミ拾い」です。どうしてこの三つが大切なのかを説明したいと思います。

「挨拶」の「挨」とは、押し開く、相互に近づくという意味があり、「拶」は迫るという意味があります。どちらも自分から心を開いて近づくという意味になります。先日ある人から次のような話を聞きました。「毎朝北上川の土手を散歩しているのですが、自分から挨拶するようにしています。最近は何の人も挨拶を返してくれるようになりました。先日、中学生らしい男の子が走って私の横を通り過ぎるときに元気な声で『おはようございます』という挨拶をして通り過ぎて行きました。爽やかな風が通り過ぎたみたいで、一日中温かな気分でした。」挨拶は人の心を温かくしてくれるのですね。自分から、相手の心に届く挨拶をしたいですね。

「清掃」は、お世話になったものへの感謝の気持ちを表すことだと思っています。子供の頃、「借りたものは借りたときよりもきれいにして返しなさい」とよく言われました。その頃はなぜそうしなければならないのかよく分かりませんでした。最近になってその大切さがやっと分かってきました。今日の「掃除を極めよう」はトイレ掃除ですが、トイレが一番汚いところというイメージがありますが、人間の排泄物を処理する最も大切な場所の一つです。トイレ掃除を、心を込めてやった後は爽やかな気持ちになると聞いたことがあります。トイレ掃除をしっかり学んで、家でもやってみましょう。「その家の様子は玄関とトイレを見れば分かる」と言われたことがあります。『耕人塾』で学んでいる皆さんがまず実践してみましょ。

「ゴミ拾い」について話します。十年ほど前、川開き祭り花火大会の次の朝、生徒と教職員で街の中のゴミ拾いをやろうと提案したら、60名を超える生徒が集まってくれました。「他人が捨てたゴミを中学生に拾わせることはどうなんだ」という声も聞かれましたが、次の年も実行しました。そしたら200名を超える生徒が集まってくれました。3年目は、JTの方や街の人たちも一緒に拾ってくれるようになりました。「他人が捨てたゴミを拾う必要があるのか？」という論理は一見正しいようですが、人間が生きているということは多くの命をいただいていることであり、多くの人の支えがあって自分の今があるのだと思います。そうであるならば、人のために自分にできることをやるということで、プラスマイナスゼロになるのだと思います。できれば、自分の毎日の実践がプラスになるような生き方をしたいですね。

たった1泊2日の研修ですが、塾生の皆さんにとって一生の財産になる体験だと思います。「挨拶・清掃・ゴミ拾い」を極めて、「挨拶・清掃・ゴミ拾い」の達人になりましょ。

今回の研修の「災間に生きる」では、東日本大震災から何を学んで、これからの生活にどう生かすかということを考えてみましょう。また、「植樹」では、復興拠点の一つになっている渡波の明神社に復興祈念の植樹をします。10年後、20年後、皆さんが植えた木が大きく成長し、復興のシンボルの一つになると思っています。植樹をすることで、自然に生かされていることに感謝し、自然と共に生きていくことの大切さを実感してほしいと思っています。